



higashiyamato no
ひがしやまとの



kokusai koryu
こくさい こうりゅう



『外国と日本の違いに気づいてみよう・
見つけてみよう』

～小学校の先生として見たエクアドル～

東大和市立第三中学校における国際理解講座（平成25年11月11日実施）より

発行：平成26年1月

東大和市役所 市民生活課

☎563-2111（内線1711）

平成23年4月から平成25年3月まで青年海外協力隊の一員として、エクアドルで活躍された^{みさわ}三澤^{わたる}渡さんに、市内中学校において講演を行っていただきました。

その時の講演の様子をお伝えいたします。

東大和市立第三中学校のみなさん、こんにちは。

ただ今紹介いただきました、三澤 渡（みさわ わたる）といます。

平成23年から約2年間、南米にありますエクアドルという国で青年海外協力隊員として小学校の先生をやっておりました。

今年の3月下旬にエクアドルから帰国しまして7か月ほど経ちました。

今は、あきる野市立草花小学校というところで5年生の担任をしております。

今日は私の学校は実はお休みです。土曜日に展覧会があってその振替休日ということで、これは何かの巡りあわせか、今日は皆さんにお会いするとってもいい機会だなと思ひまして、お休みを返上してこちらにお話をさせていただきにまいりました。

市役所の市民生活課の皆さま、教育委員会の皆さま、及び第三中学校の校長先生をはじめ職員の皆さま、このような機会を与えてくださって本当に感謝しております。

誠にありがとうございます。

それでは「外国と日本の違いに気づいてみよう、見つけてみよう」、ちょっと小学生みたいな言い方で申し訳ないんだけど、小学校の先生なので勘弁してください。

そのように題しまして、私の話を始めたいと思います。

まず最初に私の方からお願いです。私の話の中から生徒の皆さんが少しでも新しい発見とか気づきをしていただきたいと考えてます。ですから、今から私の話すことに自分から積極的に耳を傾けて参加してください。インタビューに行きます。後ろの方、行きますからね。話に行きますので、参加をしてください。

違いを知っていただくには参加をして反応してください。

私は今、小学5年生を担当していますけれども、よく言います。人の話は耳と目と心で聞いてください。 それでは始めます。

【 自己紹介 】



まずは自己紹介をしながらエクアドルのことを少しずつ話していこうと思います。

私が住んでいた村の先住民族が着ていた民族衣装を、これから着ながら自己紹介をしたいと思ひます。

（三澤先生、上着を脱ぎはじめると生徒たちから歓声が聞こえる）

これは1枚の布の真ん中に穴を開けてるだけのものなんですけど、これを被るんです。

(三澤先生がポンチョを着はじめると、生徒たちから笑い声が聞こえる)

これはポンチョといいます。

私は今から約10年前に東大和市立第五小学校の先生として東京都で働き始めました。生徒の皆さんの中には、私のことをよく知っているという人も沢山いると思いますが、私のことを知ってるよっていう人は手を挙げてください。

(手があまり挙がらず。恥ずかしがってる様子。)

あれっ。(笑い声、何人か手を挙げる)

もうちょっと私の話に素早く反応してください。

では次、ズボンをはきます。ちょっと恥ずかしいけどはき替えるね。

(三澤先生、みんなの前で自分のズボンを脱ぎ民族衣装のズボンにはき替える。)

会場から「え〜」、「脱いじゃった」、「まさか…」等、楽しそうな歓声が聞こえる)

こんな感じです。七分丈です。(「かわいい」と歓声があがる)

では、話を続けます。

五小で7年間働いた後、青年海外協力隊に応募をしました。

エクアドルはスペイン語を話すので、スペイン語の語学訓練を受けてから、南米の赤道直下の国、エクアドルに行きました。

この国はみんな知っていると思うけど、ガラパゴス諸島があることでとっても有名です。私は首都のキトというところから南へ600キロメートルのロハ県サラグロ市という所に住んでいました。ここはペルーの国境沿いです。

先住民族サラグロ族のコミュニティにある6つの小学校を巡回して小学校の先生をしていました。主に小学生に算数を教える仕事をしていました。

次は最後の違いです。(三澤先生、帽子をかぶる)

スペイン語ではソンブレロと言いますが、帽子です。牛柄の帽子です。牛の模様がつばの内側についています。しかもこれは、硬いんです。羊の毛でできていて、ぐーと圧縮して陶器みたいな硬さになっています。(みんなの前で叩いてみる)

私が着ているのは、サラグロ族の男性の民族衣装です。女性は半ズボンではなくて、巻きスカートみたいなのを着ています。上はブラウスです。

ちょっと滑稽に見えるかもしれないんですけど、どうでしょうか。子どもからおじいちゃんまでこんな恰好をしています。日本でいうと着物でしょうか。

これが正式な正装といって、お仕事も、出かけるときとか儀式のときなど、そういった時には必ずこれを着ていきます。 それでは次に行きます。

【 スペイン語だらけ 】

三澤先生、突然スペイン語を話し始める。

生徒達はスペイン語がわからず何を言っているのかわからない様子。

「メジャモ・ワタル・ミサワ」「コモ・セ・ジャマ」を何度か聞くと何となくわかった様である。

三澤先生、校長先生に「コモ・セ・ジャマ(名前は何ですか)」、校長先生「メジャモ・

アツシ・ホソイ（私の名前は細井篤です）」と答えると生徒からは歓声上がる。
その後も、三中の先生や生徒達の所へ行き、名前のやり取りを行う。
そのたびに生徒達より楽しそうな歓声上がる。

その後も三澤先生のスペイン語での授業は続き、数字（1から10）を生徒達が復唱したりと、スペイン語にふれることができた。

（なぜか数字の「8（オッチョ）」になると生徒達より笑い声が聞こえてくる）

【 言葉の問題 】

ここから日本語で話しますけれども、こんな感じであちらで授業をしていました。

初めてこんな言葉をなだれのように喋られても、困りますよね。私は困ります。皆さんも困る人が多いと思いますが、エクアドルでは当然だけれども、毎日スペイン語で生活をしていました。

日本人は私の周りには一人も住んでいませんでした。ですので、学校に行くと私はそんなに流暢に喋った訳ではないんだけど、割に皆さんにわかるかもしれないなと思いながら喋りました。もっとペラペラ喋る、あと学校の子ども達もスペイン語で喋る、それを理解しなければなりません。

青年海外協力隊員として一番苦しいことは、やはり言葉の問題でした。

特に学校の先生は喋らなきゃいけない。喋るのが商売ですから、何とかスペイン語ができるように頑張らなければいけないということで、すごく大変でした。

エクアドルで生活を始めたときに、エクアドル人の言っていることが何にも理解できない。少しは分かりましたよ。お腹がすいたとか、僕はこれが好きですとか、少しは勉強していきましたけど、ほとんど早口で喋るので理解できません。最初のうちは、本当に困りました。最初の半年くらいはそういう日々が続きました。

だけど1年くらい経つと、子ども達の前で授業ができるようになりました。言葉がわかってくると、急速に人間関係も良くなってきます。今言ったこと、覚えておいてください。では、次いきます。

【 日本との違いを見つけよう 写真1 】

（プロジェクターで写真を写しながら）

学校の様子



この写真から気づくことを3つ以上書きましょう。

この写真は、私が算数を教えた学校の一つです。ニヤマリン小学校です。ニヤマリンというのはこの地名です。スペイン語ではなくて現地語です。

南米の国はどちらかというと、植民地になっていた時期がたくさんあって、エクアドルはスペインに占領されていたので、スペイン語を覚えさせられて、今でもスペイン語を喋る国なの

ですが、それ以前は現地語のキチュア語という言葉を知っていたそうです。

それでは皆さんに、この写真から気づいたことを何でもいいので3つ以上見つけて欲しいです。ここから積極的に参加をしてほしいので、3分ぐらい時間をとりますので、何でもいいので3つ以上自分の中で見つけてみてください。

お隣と相談してもいいです。3分後に質問して回ります。

～近くの生徒同士、写真を見ながらわいわいと相談～

今日のテーマは「日本との違いを見つけよう」ですから、日本との違いを探してみてください。準備はいいですね。どんな気づきでもいいですから、反応してください。

それでは聞いていきます。

どんなところに気づきましたか？

【生徒】全身（着ているもの）が黒っぽい。

黒っぽい服を着てますよね。このようなことでいいです。何か感じるものが、違いを知る第一歩です。

ここのサラグロ族の人たちは、民族衣装にお葬式の恰好をしようという伝説を持っています。なぜかという、昔スペインとの争いがあった時にここの地域の人たくさん死んだようです。その人たちをお弔いするために、弔いの民族衣装を着て、いつも黒を身にまとってしようという、そういう伝説があるんです。

ですから、エクアドルでは黒を基調としたものを着ないけれども、この地域の人たちは、黒を基調としたものをあえて着るといことです。とってもいい気づきだと思います。

これを小学校の制服として定めていまして、これを着てこないと先生から怒られます。黒い帽子もあります。先生も授業中部屋に入っても、この帽子をかぶったまま、子ども達も帽子をかぶったまま授業を受けています。

【生徒】人が少ない。

そうですね。人が少ないです。この学校は、全校生徒が40人くらいしかいません。40人くらいの所に、先生は5～6人しかいません。すごく山奥の学校で、1クラスに例えば3年生と4年生がふたつの複式学級で、学年は2つで先生が1人、そういう感じでも少ないです。

1年生から7年生までいます。ここの1年生は、日本でいう保育園の年長です。7年生は日本でいう6年生です。とても人数が少ないです。

【生徒】グラウンドが小さい。

校庭は小さいです。しかもこの校庭、地面はコンクリートでできているんです。

先生の立場でいうと、こんなコンクリートの上でいろいろ遊ばせて転んだらどうするのかなって思うのだけど、結構この小さなコンクリートの校庭でいっぱい遊んでます。ケガもそんなにしないです。

校庭には何が置いてありますか？

【生徒】バスケットゴールとサッカーゴール

エクアドルは、日本と同じようにワールドカップに進むことができました。エクアドルという国はあまり有名な国ではないですけど、世界一強いと言われているブラジルとたま

に試合をして勝つような国なのです。だから子ども達や大人達も、このコンクリートのグラウンドで毎晩のようにサッカーをしています。

休み時間はサッカー、体育の時間もサッカー、サッカーしかやっていないような、そんな町でした。

これは、特殊なことをやっている感じがしませんか？週に1回しかやらないことです。しかも月曜日の朝です。小学校では、必ず月曜日の朝、朝会をやりますね。そこでどんな話を聞きますか？校長先生の話の聞きますね。エクアドルでも日本と同じように、朝、校長先生の話の聞いて、その1週間のスケジュール等、校長先生の話の聞きます。日本ではないですけど、必ず国歌を歌います。

どこの小学校でも月曜日の朝は校長先生の話の聞いて、国歌を歌い、それから授業を始めるといふ形になります。

なんと朝、授業が始まるのが、朝7時です。休み時間が10時頃にあります。近くにお店があつて、そこにお菓子を買ひにいつて、日本ではありえないけれど、お菓子を食ひながらサッカーをして過ごしています。朝、始まるのが早いので、下校時間はだいたい12時から1時の間で給食はありません。給食を出すのは予算的に難しいので、朝早く始めて、休み時間にちよつとおやつがあつて、子ども達はお昼頃に帰つていきます。子ども達はお昼に山を下りて家に帰つて、主な産業は農業しかありませんから、牛の世話をしたり草を刈つたりとか、お手伝いをしています。

【 日本との違ひを見つけよう 写真2 】

食ひ物



これは私が住んでいたコミュニティから、山道を1時間半歩いて下つていた町のレストランで出されたお昼御飯です。よく見てください。このお皿の上にある食ひ物の材料は何だと思ひますか？

【生徒】「肉」「お米」「イモ」など・・・

実際のものと言ひます。白いものはお米です。黄色っぽいものはバナナです。バナナを揚げたものです。甘いです。肌色のものは小さいジャガイモを茹でたものです。大きいジャガイモは無いです。カレーのようなものは、豆を煮たスープです。それから肉みたいに見えるものは、豚のレバーを焼いたものです。

これがエクアドルの代表的な食ひ物ですという訳ではないですけど、一般的にこのようなものが食ひられてますということなんです。

一般的にエクアドルで採れるもの、お米やバナナというのは、標高が低くて気温が高いところでないとは採れません。寒いところでは採れません。日本で食ひられているバナナは、フィリピンとかエクアドルのバナナを売つてますけれども気温の高いところからきています。豆とかジャガイモなどは、私の住んでいた地域で採れている作物です。

エクアドルというのは赤道直下の国なのですけれども、気温がすごく高い地域もあれば、低い地域もあります。なぜかという、エクアドルの国の中央にはアンデス山脈という高い山が続いた山脈が走っています。だから標高がとっても高い地域があるんです。いきなり行くと高山病になってしまいます。

私は標高2600メートルの所に住んでいました。ですからそういう所では、豆とかジャガイモとかトウモロコシしかつくられません。肉などは、どこでもつくられます。そういったことで、一つの皿の中にエクアドルの気候がわかる作物がいっぱいのっているということを紹介したかったのです。

私の住んでいた2600メートルの地域は1年中春先の少し肌寒い気候です。ですので、寒さをしのぐポンチョを着ている人が多いです。

【 日本との違いを見つけよう 写真3 】

仕事



この写真は、私が日本に帰る2か月くらい前に撮ったものです。この時にはだいぶスペイン語ができるようになっていました。この写真から私が小学校の先生として、どんな仕事をしたと思いますか？これは私の最後の仕事の写真です。この写真からは良くわからない人が多いかもしれません。みんな同じ本を持ってます。教室です。みんな民族衣装を着ています。これは学校の先生方です。私もこの中に混ざっています。

エクアドルの先生たちと一緒に勉強会をしています。ここのコミュニティーの小学生達は足し算、引き算、掛け算、割り算の基本的な計算がとっても苦手でした。九九も言えません。通りすがりの中学生に「九九言える？」と聞いても言えません。そのくらい、算数の勉強を頑張らなくてはいけない子たちが多かったです。ですから、私は授業をしながら効率よく計算練習ができるプリントを自分で作りしました。授業をしていて、子ども達とはとっても仲良くなれたけど、私がやっていたプリントをどうしようかと思ひまして、日本に帰る前にそれまでにつくった計算のプリントを1冊の本にまとめました。それが先生方が持っている本です。この本を6つの小学校の先生方全てに配布しながらプリントの使い方を教える勉強会をしました。その時に撮った写真です。勉強会をなぜしたかという、私は日本に帰ってしまいますから、残された先生方がこのプリント集を活用して、少しでもエクアドルの子ども達の算数の学習に役立ててほしいと思い、まとめてつくって置きました。

【 青年海外協力隊になるには 】

最後に青年海外協力隊になるにはどうしたらいいのかのお話をしたいと思います。

今日は主に日本との違いについて気づいてというお話でしたけど、普通に日本で生活するようにエクアドルで生活することは難しいです。

例えば日本ではトイレでお尻を拭いた紙は流しますよね。エクアドルは流さないです。紙は隣に置いてあるゴミ箱に捨てます。すごく抵抗があったりします。いろいろな違いがあり、日本のようにはいかないです。エクアドルでは日本と同じような生活はできません。

違いを受け入れて理解してその人たちの社会の中に自分が受け入れられるというのは、とっても我慢のいることでした。正直、泣く程苦しかったです。夜、一人で布団に入って泣いたことも有ります。もうどうしようと思いつつ泣いていました。

でも自分なりに頑張っていけば、どんな環境にあっても成果を出すことができるんじゃないかと、この活動を通して実感しました。

私は自分の力を外国の異文化の中で試したい、チャレンジしたい、自分の心を鍛えてみたいという人には、青年海外協力隊に参加することをお勧めします。

ちょっと辛い体験かもしれないけれど、その壁を乗り越った時に違う自分に出会えるんじゃないかなという気がします。

基本的には20歳以上の健康な人であれば参加することができます。私の話を聞いて興味わいてきたなという人は、JICA（ジャイカ）日本語では国際協力機構と言いますが、ホームページを検索してみてください。とても詳しいことが書いてあります。今は生徒さんに話していますが、先生方にもぜひ参加をお勧めします。

協力隊の活動には、いろいろなことが求められるのですが、三つの気「やる気、元気、根気」これが無いと、何も前に進まないです。特に最後の「根気」が一番大事だと思います。協力隊の活動は外側から見ると、とっても派手な活動に見えますけど、実際は孤独との戦いでした。その孤独に打ち勝つには、根気って必要だなと思います。最後は根気、どこまで粘れるか。やる気と元気と根気でどこまで粘れるかで自分の活動というものが、できてくるのではないかな、それを乗り越った時に新しいものが自分に芽生えて、これから豊かに生きていけるのではないかなという気がします。

これで、私の話は終わりになりますが、質問がある人はプリントに記入して担任の先生にお渡しください。答えられる範囲で答えようと思います。

【 ホームステイ先 】



ご清聴ありがとうございました。

最後に、この写真は私がホームステイをしていた家です。すごい山の中の一軒家です。

ホームステイ先のご主人が、庭にバレーボール用のコートを作って村人を集めてバレーボールをしているところです。なんとスポーツをしている時も民族衣装を着ています。この村のサラグロ族にとって、この民族衣装は自分たちのアイデンティティを表す、とても重要なアイテムなんだと思います。それではこれで終わりにします。

ありがとうございました。